

グローバル・カフェ×留学生センター共催「中国 & タイイベント」を開催しました

6月26日(水)、留学生センターとの共催で「中国 & タイイベント」を開催しました。さぬきプログラムに参加している谢(以下、シャ)さん、张(以下、チョウ)さん、孙(以下、ソン)さんより中国について、Khim(以下、キム)さん、Pond(以下、ポン)さんよりタイについて紹介していただきました。留学生16名、日本人学生6名、教職員5名の計27名が参加しました。

シャさんは中国について、23の省、5つの自治区、4つの直轄市、2つの特別行政区で構成され、人口は14億人、現在世界で二番目に人口が多い国であると紹介しました。国内には56もの民族が存在し、そのうちの92%は漢(Han)民族で占められているそうです。そのほかの少数民族としてモンゴル族、チベット族、ウイグル族なども写真を交えて紹介しました。



チョウさんは中国で最も重要な祭り「Spring Festival(春節)」について、通常1月末から2月初めに行われるが、中国農暦に基づき毎年異なる日にちで祝われると話しました。伝統的な習慣として、春節前夜に家族で特別な食事を楽しむ、子供たちにお年玉を渡す、花火や爆竹を打ち鳴らすことで邪気を払うなどを行い、心機一転、新年を迎えると述べました。春節時に、偶然長崎にある中華街を訪れたことがあるという参加者から、夜まで爆竹が鳴り響いていたのを聞いたというコメントもありました。



ソンさんは、数多くの中国古代遺跡の中の一つとして、紀元前208年に39年の歳月をかけて完成した「Terracotta Army(兵馬俑)」を挙げ、陶器で作られた7,000人の兵士、100台の戦車、100頭の馬が壮大に並んでいる様子を紹介しました。これらは秦始皇帝の墓の一部として、警護の役割を果たすように配置されており、武器や馬具を含む細部まで詳細に彫刻されていることから、広く重要な遺跡として認知されており、国内外から多くの観光客や研究者が訪れると述べました。



続いてポンさんよりタイの概要として、面積は513,120 km²であり、5地域、77州から構成され、人口約7,000万人のうち95%以上は仏教徒、国の形が象の横顔と言われていることなどの説明がありました。有名な観光地として、タイ北部、チェンマイに位置するタイ最高峰の山「Doi Inthanon(ドイ・インタノン)」と、伝統的なタイの寺院とは異なり、全体が白い外装で覆われた独特なデザインで知られている「Wat Rong Khun(ワット・ロンクン)」別名ホワイト・テンプルなどを紹介しました。

キムさんはタイの主要な祭りの一つ「Phi Ta Khon Festival」について、「Phi」が「幽霊、精霊」、「Ta Khon」が「後に続く」を指すことから「人々の後に続く幽霊」を意味していると話し、祭りの期間中、参加者は幽霊や精霊を模した仮面と、色とりどりの衣装を身につけ、音楽に合わせて踊りながら街中を行進すると紹介しました。仮面はココナツツの木の皮や竹を使って手作りされ、長い鼻や角があるもの、大きな目が描かれているものなど様々で、どの仮面や衣装が最も美しいかを決めるコンテストも開かれると話されました。



質疑応答の時間では「中国にある膨大な数の古代遺跡の維持費はどこから捻出しているか？」の問いにシャさんは「主に政府の予算と観光収入」と答えて、多くの古代遺跡は観光地として開放されていることから、入場料等が維持費の一部に充てられていると付け加えました。また「タイの Phi Ta Khon Festival では誰が踊るのか？」とあり、キムさんは「主に地元（タイ北部のルーイ県）の子供や若者（男性）」とし、最近では観光客が参加することも見かけるが、精霊や先祖の霊を供養する意味も込められているため、地元民が伝統的な踊りを披露することが多いと答えました。

